

# 第3回・夏休み自然観察記録コンクール

身のまわりの自然を見て作文や絵にくわしくかいてみよう

## 伊 達 佐 重

だて・すけしげ  
1932年、三笠市生まれ  
学芸大学札幌分校修了  
三笠市立教育研究所所員  
空知教育研修センター講師

第三回「夏休み自然観察記録コンクール」は、本年も北海道新聞社、北海道新聞野生生物基金との共催をお願いし、北海道教育委員会の後援も得て実施することができた。

前回までは対象者を小・中学生としていたが、中学生は応募者数の少なさと作品の質の低さからそれを外すことにした経過がある。その原因としては、高校受験が立ちはだかっているとじっくりと自然観察に時間をかけようとする心の余裕がないことが考えられる。

今回は道内一円から百三十点の作品が集まった。会報NCで紹介をし、各市町村教育委員会に募集要項を送付して所轄小学への衆知を依頼した。しかし応募の増加は、北海道新聞が全道版に掲載してくださった杜告の宣伝力に負う所が大きい。この紙面をかりて改めてお礼申し上げる。

○審査に当たった方々

- 俵 浩三(道自然保護協会会長)
- 佐藤 謙(同 副会長)
- 布施 俊幸(道新野生生物基金事務局長)
- 鮫島惇一郎(自然環境研究室主宰)
- 三浦 二郎(樽前自然教育研究所主宰)
- 伊達 佐重(道自然保護協会常務理事)
- 福地 郁子(同)

入賞者及び優秀作品の発表を十月二十九日の道新紙上で行った。児童の在学する学校には入賞者名簿、賞状、副賞(図書券)を送り、全校生に朝会などを利用して伝達して頂きたいとの依頼文も同封した。また応募された小学校にも入賞者名簿を送り、感謝の意を述べた。

○入賞者は次の通りである(★は絵)

- 特別賞 石井 慧(札幌市立手稲宮丘小五年)
- 金賞 伊藤明日香(恵庭市立若草小六年)
- 銀賞 寺嶋 俊輔(札幌市立白石小五年)
- 高秀 泉(同 元町小二年)
- 銅賞 新谷 俊明(函館市立本通小六年)
- 山谷 学(同 駒場小三年)
- 稲葉 智美(同 柏野小四年)
- 金谷 大祐(旭川市立東栄小六年)
- 刀禰 浩一(根室市立花咲小二年)
- 刀禰 春洋(同 一年)
- 佳作 宮田 裕美(札幌市立前田小六年)
- 松矢 悠(同 南の沢小五年)
- 宮本 暁(同 緑丘小四年)
- 重枝 礼(同 東白石小三年)
- 東 温野(常呂町立常呂小五年)
- 村上 弦矢(苫小牧市立泉野小五年)
- 矢北 雄(栗沢町立栗沢小四年)
- 有好 宏文(旭川市立啓明小三年)
- 吉田 千里(恵庭市立若草小二年)
- 伊藤 結美(同 一年)
- 浜 礼菜(千歳市立向陽台小二年)
- 上代 隼也(釧路市立共栄小一年)

### 審査を終えて

前回の反省点を生かす

昨年金賞の石井慧君は、今回ハチを題材にして絵も文も一段と上達した作品にまとめ上げ、審査をした全員をうならせました。いろいろと相談のうえ「特別賞」を贈ることに決めました。

今年、金賞に輝いたのは、恵庭岳をふくめて四

つの高山に登って植物を調べた伊藤明日香さん（昨年は銀賞受賞）です。二年連続して応募された数人とも、前年の反省点を生かして工夫のあとが見られたことをつけ加えておきます。

銀賞となった高秀泉さんは、モンシロチョウの研究の動機や必要な道具から書き始め、絵日記の形をとりながら着実にまとめ上げました。同じく寺嶋俊輔君は、メダカと金魚の泳ぎ方の違いや群がるかどうかなどを水の流れをつくり観察して表にしました。水流にどんな反応を示すのか、似た仲間とは同じ行動をするのかという疑問を順序をよく実験したのが光ります。

刀禰春洋君、二年生の浩一君は兄弟でそろって銅賞です。二人とも身近な小動物が大好きで、世話をしながら細かいところを注意ぶかくとらえています。いつも続けている人が実力を出しただけかもしれないね。絵や図などを加えてまとめられるように努力をしてください。

五十日にわたってサンショウウオを見つめ続けた山谷学君の根気強さと、上手なさし絵に感心しました。また、キ

アゲハを取り上げた金谷大祐君は、説明文が良くできていました。図を大きくするともっと引き立ちます。新谷俊明君は星座表の描き方が明解で目立ちましたし、稲葉智美さんは実験の結果を時間が

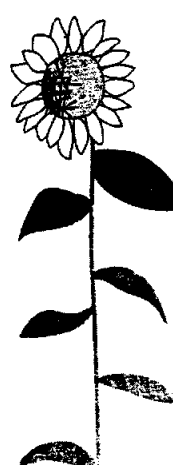
〈参考資料〉

数 学年	応募者	入賞者
1年	16	3
2年	20	4
3年	19	3
4年	12	3
5年	38	6
6年	22	3
計	127	22

※応募点数130点

（一九九六年十月二十九日付の北海道新聞より転載）

たつにつれどう変化したか、よくわかる表現が立派でした。  
そのほかにも楽しみながらオケラを追い求めた村上弦矢君や、家中の人がスズメの命を救おうと努力した情景をつづった有好宏文君の作品が印象に残りました。



## 第3回 夏休み自然観察記録 コンクール

- 募集テーマ／◆身のまわりの自然をよく見て、作文や絵に詳しくかいてみよう。
- 応募資格／◆道内に在住する小学生。
- 応募規定／◆作文用紙は自由な規格。低学年は絵日記ふうなまともな方法でもよい。  
絵は画材、用紙、大きさ自由。応募の例として  
(1) 作文だけ (2) 作文と絵 (3) 絵だけなど自由。  
◆応募票は作文（表にも絵（裏にも）一枚目だけに張る。  
（題、住所、氏名、学校名、学年を明記して下さい）  
◆作文はページ番号、絵には順序を示す月・日や番号を入れる。
- 応募先／〒060 札幌市中央区北3条西11丁目加森ビル5-6F  
(社)北海道自然保護協会 ☎011-251-5465
- 締め切り／1996年9月10日(火) 必着（郵送か持参）
- 入賞者の発表／10月下旬までに北海道新聞紙上で入賞者を発表し、本人または在学する小学校へ名簿を送ります。
- その他／応募作品は返却しません。優秀作品は北海道新聞および自然保護協会の広報紙などに掲載します。本年度（1996年）の作品で未発表のものに限ります。

**賞**

金賞 1名(賞状、図書券10,000円)

銀賞 2名( 〃 〃 7,000円)

銅賞 6名( 〃 〃 5,000円)

佳作 12名( 〃 〃 3,000円)

■主催／(社)北海道自然保護協会、北海道新聞社、(財)北海道新聞野生生物基金 ■後援／北海道教育委員会

(北海道新聞1996年8月1日)

優秀作品紹介

特別賞

土の穴から出てきたハチ(抜粋)

札幌市立手稲宮丘小五年 石井 慧

ちようにほってみたけど、すぐずれるので、なかなかうまくいかなかった。  
最初、自分の見つけたハチの名前がわからなかった。何冊もの本を調べて、やっと名前だけはわかった。けれど、その生活はわからなかったたので、観察をするのがむずかしかった。

〈きつかけ〉

初め頃は、アリの観察をしようと思っていた。けれど、ハチの観察をすることになったのは、あの穴を見つけたことだった。

〈おもしろかったこと〉

全く知らないことから少しづつ謎(なぞ)がとけていったのが楽しかった。だけど、次々に謎は深まって、いろいろ想像したり考えたりして新しい発見をした時は興奮してしまった。

〈工夫したこと〉

絵をたくさん入れて様子を表現したり、マンガ風にしてわかりやすくしてみた。

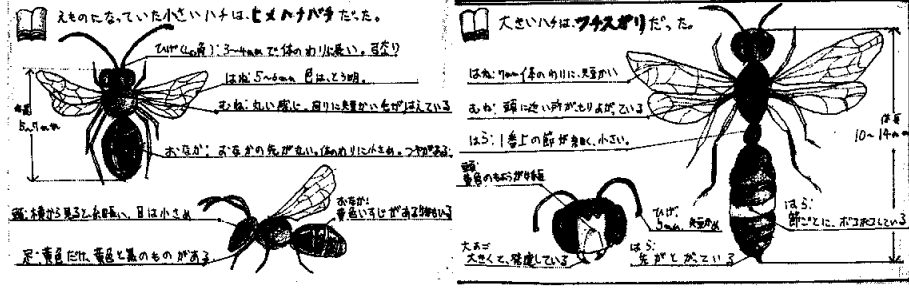
〈観察しながら思ったこと〉

ハチは天気が悪いと幼虫のエサを取りにいけなくなる。もし、ながい間雨が降っていたら、幼虫は死んでしまうのだろうか。ジカバチのなかまにも、イモムシなどを狩(か)るものがある。今年、ドクガの幼虫が多いというニュースを聞いた。今年、は寒くて天気が悪かったたので、ドクガの幼虫を刈る事ができなくなったのだろうか。

〈苦労したこと〉

ツチスガリは穴から出たり入ったり、いろいろな行動をしていたので、観察するのが大変だった。穴の中がどうなっているのか見てみたくて、しん

4. 正体はツチスガリ



11. 虫がいた!

<p>★ 8月15日 土の中で幼虫を発見 穴をほっていると、深さ20cmくらいの戸をひいてセリノのまじり虫を見つけた。ツチスガリの幼虫では無いがと思て、かき出すことにした。虫が土に土を入れて、固めてから、部屋より大きめのくぼみを作り、その中に入れた。いよいよ出てきた完全な状態のツチスガリを6匹もかき出した。</p>	
<p>● 幼虫の体の様子 大きさは2cmくらいで、体の中に黒い粒がすけて見える。頭が小さい。大きめが目。あし(1)の先がとんがっている。</p>	
<p>● 8月16日 小さい虫の幼虫 朝、幼虫を飼って、まわりにあたまをかきまわす。カラスに食べられた。</p>	
<p>● 1日おうちに、もがはつたハチを飼うとは、思わなかった。</p>	
<p>★ 8月17日 エサが足りなくなったので、土の中からさがし出した。むきのヒメハチバチを育てた。8月18日、ツチスガリがつかまえたものを種とりして、生きたまき手えた。(ヒメハチバチは、毎日くらいで全く、動かなくなる。)</p>	
<p>● 8月18日、17日にあつたエサは、かたにる。こいた。エサがたりなかつたのか、</p>	

### 身近な高山植物 (抜粋)

恵庭市立若草小6年 伊藤明日香

#### 〈動機〉

新聞やテレビで「アポイ岳の高山植物が三十株盗まれた」というニュースを見て「高山植物とは、どのような植物だろう」と思い、調べてみることにしました。

#### 〈調べた山〉

支笏湖周辺の樽前山、恵庭岳、風不死岳、紋別岳。私の登れる身近な山にも、高山植物がたくさん生えていました。

#### 〈まとめ〉

本州では二千四百以上の山に生えている高山植物が、北海道では千以上の身近な山で見られる。

植物の名前を調べるのには、似た植物が多いので、ひとつひとつよく観察しなければ区別しにくい。観察のポイントは、①高さ、②咲いている所の花の時期、色、形、付き方、③葉の形、付き方、ふちの形、さげ方、④おしべ、めしべの形、数、⑤がくの形、数、⑥花や葉やくきなどの毛があるかないか。

①樽前山 火山活動が続く。イワブクロ(タルマエソウ)が多く生える。手軽に高山植物が見られる。

②風不死岳 緑におおわれている。マイヅルソウミヤマホツツジ、イワギキョウが多い。

③紋別岳 古い山でチシマザサが多い。頂上にはトウゲブキが生えている。

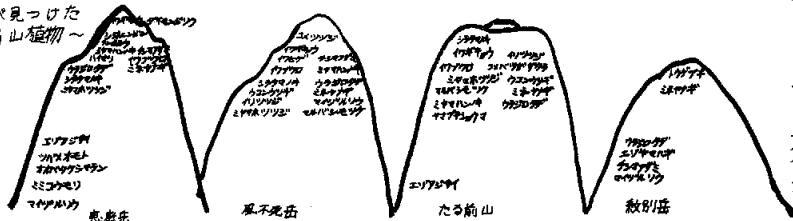
### 身近な高山植物

伊藤 明日香

~印象に残った高山植物~



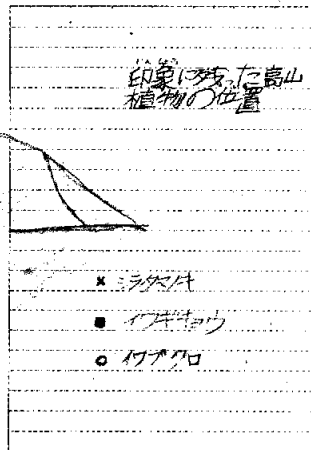
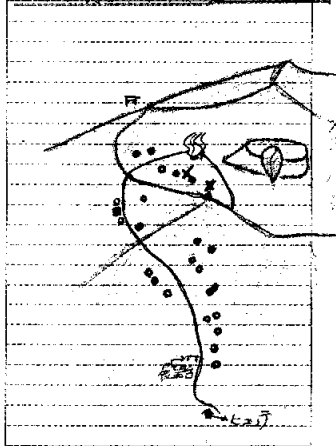
~私が見つけた高山植物~



④恵庭岳 支笏湖周辺で一番高い険しい山。高山植物が多い。ツバメオモト、サンカヨウが実をつけていた。頂上にはイワギキョウがあった。今年はずっと悪かったけれど、支笏湖周辺の四つの山に登って自然の美しさを知る事ができました。また、身近な山といっても風やきりや岩登りなどで、とても山は厳しい自然条件だとわかりました。その中でさいいている高山植物は、とても大切な植物です。

〈研究を終えて〉  
身近な山にも高山植物がたくさん生えていることを知り驚きました。特に恵庭岳にはいろいろな種類の高山植物が生えていました。樽前山では森林限界が六百〜七百メートルと低いので、ヒュッテから高山植物を見ることができました。  
今まで樽前山しか登ったことがなかったけれど、今回の研究でたくさん山の山に登って、高山植物が生える場所は厳しい自然条件だということが分かりました。最近、「高山植物がぬままれる」というニュースがありました。高山植物は山に生えているのが一番なので、高山植物は大切にしなければいけないと思います。

### 樽前山のまとめ



メダカの観察(抜粋)

札幌市立白石小五年 寺嶋 俊輔

家でかっていたメダカが、たまごを産んだので調べることにした。

〈観察1〉メダカと金魚の泳ぎ方の違い

メダカは左上のグループとエアポンプの近くにいるグループの二つがある。これは一匹のおすが中心の小さななわばりです。金魚は右下に居ることが多く、えさをあたえても、あまり上にはきません。

▽まとめ

メダカは金魚と違い、群れを作ってすみ、流れに向かって泳ぐ。また、なわばりもつくる。

〈観察2〉メダカたまごの育ち方

朝、メダカのメスのほらに卵がついていた。ほくには十こぐらいにみえたが、本では三十こくらい産むらしい。夕方になるとメスのほらに付いていたたまごが、水草に付いていた。四日目に、たまごの中にとう明な点がひとつ見えた。七日目に点が二つになった。九日目にとう明な点が黒くなった。これは目だろう。十二日に稚魚が生まれた。しっぱだけが出ている稚魚もいた。とう明なので、捜すのが大変だ。十四日目に稚魚が見えない。死んでしまったのか。

▽まとめ

メダカたまごは二週間くらいかかって稚魚になる。一回にいっぱい、たまごを産むのではなく、何回も産む。調べてみると、メスは条件がよければ、一日約三十こ産むとして、一年のうちに百五

十日間もたまごを産み続け、約四千五百こも産みます。

メダカの観察

5年3組 寺嶋 俊輔



家でかっていたメダカがたまごを産んだから調べた。

観察1

メダカと金魚の泳ぎ方のちがいを調べた。

観察	メダカ	金魚
泳ぎ方	決まなし	決まなし
泳ぎ方	泳ぎ方	泳ぎ方
泳ぎ方	泳ぎ方	泳ぎ方
泳ぎ方	泳ぎ方	泳ぎ方

観察2

メダカたまごの育ち方を調べた。

① 朝、メダカのメスのほらに、たまごがみついていた。ほくには、十こぐらいにみえたが、本では、三十こくらい産むらしい。夕方になると、メスのほらに付いていたたまごが、水草に付いていた。四日目に、たまごの中にとう明な点がひとつ見えた。七日目に、点が二つになった。九日目に、とう明な点が黒くなった。これは、目だらう。十二日に、稚魚が生まれた。しっぱだけが出ていた。とう明なので、捜すのが大変だ。十四日目に、稚魚が見えない。死んでしまったのか。

モンシロチョウのかんさつ(抜粋)

札幌市立元町小二年 高秀 泉

〈しらべたわけ〉

はたけにまいた、わたしのブロッコリーのはっぱに、モンシロチョウのたまごがたくさんついていました。それでモンシロチョウをそだててみたいと思いました。

〈つかったもの〉

一、虫かご 二、びん(水を入れた) 三、水でぬらしたティッシュ 四、ブロッコリーのは 五、虫めがね 六、虫の大きさをはかる じょうぎ

〈わかったこと〉

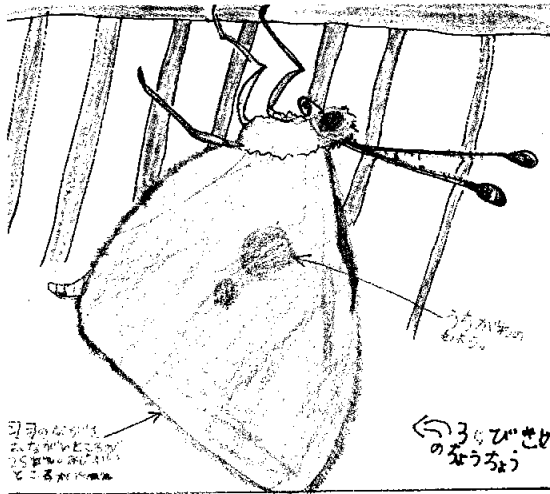
① はじめ二十このたまごだったのが、さなぎになったのは九ひきだった。② ニガの幼虫だったのが三つ五つになった。③ たまごからたった十二日ですなぎになった。④ さなぎから九日でチョウになった。⑤ 七ひきめのチョウは、一まいの羽が小さくてあまりとべなかった。⑥ さなぎのからは、けっこうパリパリしていて、糸でからまってうまくとれなかった。⑦ チョウは一びき一びきもようがちがった。⑧ うかするときは、十ひょうくらいでた。

〈たいへんだったこと〉

ふんのかたづけ、えさのとつかえ、あかちゃんがいるかしらべることがたいへんだった。キャンブじょうにいくとき、虫かごをゆらさないようにもっていくのがむずかかった。

へいいな と思ったこと

青虫がかわいかったし、チョウもきれいだった。青虫がふんをするとき、「ポロツ」とするからかわいかった。でも、あつというまにうまれて、おわかれになるなんて、さみしい。



8月 17日 (土) 1921年

### 銅賞

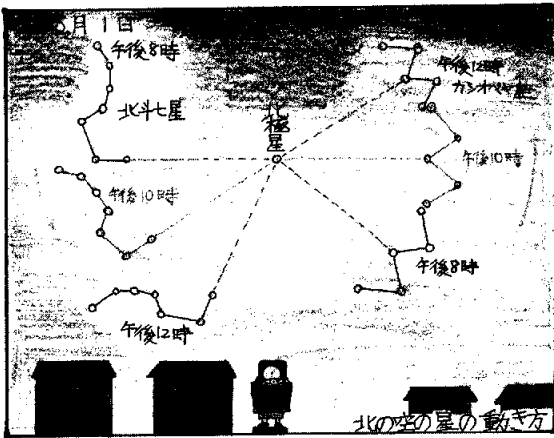
#### 夏の星座と動き方

函館市立本通小六年 新谷 俊明

ぼくは、夏休みの宿題でもある、星の観察をしようと思いました。夏休み前から、夜になると外へ出ては、空を見ました。でも、今年は、天候も不順なせいもあり、満点の星空とは、なかなかいきません。雲が多く、流れるため、夏の大三角さえ、いっぺんには、みられませんでした。

七月二十九日、午後九時、やっと夏の大三角、デネブ、アルタイル、ベガを観察しました。この三つの明るい星を結んでできる二等辺三角形が、夏の夜空では、一番めだつ星の集まりでした。午後八時から九ころ東の空に見えました。

八月一日、午後八時、北の空で一番よくめだつ北斗七星を、観察しました。北斗七星の右側には、北極星があり、さらにその右にはカシオペア座がありました。ぼくは、二時間ごとに、この星座の動きを、調べることにしました。北斗七星は、時間がたつにつれて、下に降りて行き、カシオペア座は、上へのぼって行きました。でも、北極星は動かないようです。北の空の星は、北極星を中心に、左まわり



に動いているようです。

八月四日、午後八時、南の空にさそり座を観察しました。さそり座のアンタレスは、赤っぽい色をしていました。左右には、いて座やてんびん座も見ることができました。

八月十三日、午後八時、今度は、夏の大三角の一つでもある、わし座のアルタイルの動き方を、一時間ごとに、調べてみることにしました。アルタイルは、南の空を、東から西へ動いていました。わし座の星も、そのまわりの星も、アルタイルといっしょに動きました。家の近くで、星を観察するには、高い建物が多く、あつちこつちと移動しなければならぬので、少し大変でした。

札幌に行ったその帰り道、森の海岸で、空を見上げると、心がおどった。まるで、プラネタリウムだ。満点の星空だ。あつちこつちと、移動をしなくても、すべての星が、その場でひとまわりするだけで、見る事ができた。夏の大三角、デネブ、アルタイル、ベガ、そしてアンタレス、いて座、てんびん座、北極星だ……。北斗七星、カシオペア座もある。ぼくは、いつまでも、いつまでも、空をながめていた。そして、冬になったら、また、冬の星座の観察をするために、この場所、森の海岸に来ようと思いました。

## オジギソウとネムノキ

函館市立柏野小四年 稲葉 智美

オジギソウは、学校の教室のプランターにうえてありました。ちょっと手をふれただけで葉がとじてしまって、わたしは、とてもふしぎだなあと思い調べてみることにしました。

オジギソウは、ふれた時のほかに、夜になると葉がとじて、人間がねむる時と同じようにねむって、朝になると葉を開くめずらしい植物です。

オジギソウを、色々なほうほうで実験することになりました。

- (1) 手でさわり、さわり方を弱くしたり、強くしたりしてみる。
- (2) 強く息をふきかけてみる。(風が強い時のように)
- (3) ろうそくの火を近づけてみる。(あつさではどのようになるか)
- (4) 日中黒いゴミぶくろをかけ暗くしてみる。(明るさにかんけいがあるかどうか)
- (5) 朝夕、葉がかんげんに開いたりとじたりするの、どのくらい時間がかかるかビデオにとり、調べてみる。

実験のけっかは、次のようになりました。

(1)は、オジギソウを弱くされると、小さな葉がみるみるうちに、さわったところからつけねにむけてとじていきました。

強くさわると、葉全体がとじて、葉とくきのつけねの部分が急にまがりさがつてしまいました。

(2)は、強く息をふきかけると、やはり葉はみる

みるうちにとじてしまいました。これは強い風が吹いた時と同じで、とじてしまうことがわかりました。

(3)は、ねつを加えられた先のほうからつけねにむかって、とじてしまいました。そして、つけねまでとじてしまうと、次はほかの葉のつけねから、葉の先に向かってとじていきました。そして葉が全部とじると葉とくきとのつけねの部分がたれさがりました。

(4)は、黒いゴミぶくろを一時間おおってみると、夜とかんちがいしたのか、全部葉をとじ、くきのつけねの部分からさがって、夜にねむってしまふのと同じようになりました。

(5)は、朝、五時に起き、まだオジギソウがくきのつけねの部分からまがりさがっている時間に、ビデオをセットしてその様子をとりました。すると約三十分で、くきの部分だけがあがつてきましたが、葉は、まだとじたままでした。また三十分もしましたら、葉の根に近いほうからひらきだし、全体にひらきました。夕方は、五時にビデオをセットしました。すると、これは朝とはぎやくに、葉が全体的にとじてからくきのつけねの部分がまがり全体がさがっていきました。開く時も、とじる時も、約一時間くらいの時間がかかりました。

このようなことから、オジギソウは色々な時によく動き、運動する植物であることがわかりました。それから、オジギソウは、明るさにかんけいがあり、朝には太陽の光が強くなると開き、夕方には、日がしずむと葉をとじて、ねむるということがわかりました。

なおくわしく、オジギソウを知ろうと思い図書館へ行って、オジギソウのことが書かれている本

をさがして、調べてみることにしました。

オジギソウは、ブラジルのようなねつたい地方が原さんで、マメ科の植物で一まい一まいの小さな葉(小葉)が集まって鳥の羽のような形をした羽状葉を作り、四つの羽状葉が集まって一つの葉の形を作っています。くきの部分を葉へいといいます。小葉、羽状葉、葉へのつけねには、葉ちんちんというふくらみがあって、運動は、この葉ちんちんのはたらきでおこることがわかりました。また、オジギソウと同じように、運動する植物では、カタバミや、シロツメクサなど葉の一まいが、いくつかの小さな葉に分かれている物や、ネムノキ、ニセアカシアなどが、夜になると、とじるということがわかりました。ネムノキは、よく歩いていると、庭の木でみかけます。夏の昼間、ピンク色のやわらかな花がたくさんさいているのを、みかけることがありましたが、夜は特に、きにもとめて見ることは、ありませんでした。夜お祭りの帰りに、ネムノキを見かけ、思いだして葉をみました。すると、昼の葉の開きとはぜんぜんちがいが、やなぎの木の葉のように、とじてさがっていました。

このようなことから、植物も、人間と同じように運動したり、ねむったり、こきゅうしたりしている生き物であることを、はっきり目で見、知ることができました。わたしは、植物にたいしても人間と同じに、きれいな空気や水も、守るようになければならないなあと思いました。

## ゲンゴロウ

根室市立花咲小二年 刀禰 浩一

ぼくは、小さいころから、生きものが大好きでした。今までも、いろいろな生きものを育ててきました。

たまごから育てたものも、たくさんいます。サンショウウオ、カブト虫、カエル、メダカ、金魚、ザリガニなどです。

今は、ぼくは水生昆虫に夢中です。水生昆虫は、幼虫時代は、ほとんど生きたエサがひつようなので、かうのはとてもむずかしいですが、だからますます成虫にしたいなあと思います。

今年の夏休みは、ミズカマキリ、ルリボシヤンマのヤゴ（これは、三匹のうち二匹は羽化した）ナベブタムシ、ミズムシなどをつかまえました。たまごから育てたのは、ゲンゴロウでした。

ゲンゴロウは、前にもかっていたことがあったけど、たまごからは始めてでした。春にオスとメスをつかまえてきたら、六月のおわりくらいからたまごを水草のくきにたくさんうんで、それを育てました。

たまごをうむときは、メスが頭を下にして口で水草をかじって、そのかじったところに、おしりの先をうまく入れてたまごをうみます。（うちでは、セキシウモという水草です。）たまごは、五十こくらいうみました。そして、たまごがうみつけられた水草をべつのようにうつしました。

二週間くらいで、たまごにほねみたくに見えるくろい線がでてきます。目もわかります。そうす

ると、二日間位でふ化します。ふ化したばかりの幼虫は、白くてうぶげなんかもやわらかそうで、ほんとうにかわいいです。半日もすると、少しちやいろで色がつきます。ふ化した幼虫は、ぼくがきゅう食で食べたゼリーのカップで一こ一こべつにしてかいました。ごみばこからカップをひろって、学校であらい家へもってかえってきました。エサのやり方とかわからないので、ふ化して一日位たったら、幼虫と同じくらいの大さきのち魚を一匹やると、うまくつかまえて食べました。食べるといっても体えきをすうことです。三日目からは、朝夕に二回やりました。

エサのち魚とりもたいへんです。トゲウオのち魚ですが、たくさんとってきてても、すぐなくなるので、近くの公園の池へいつもとりにいきました。元気がいいのは、魚を入れるとすぐとびかかって食べ始めます。この時、じっとかんさつしていると、くいついてすぐは、幼虫の体に赤い色のちのようなものが、ながれます。それからくろいものにかわります。体がすきとっているので、よく見えます。そして時間がたつと、そのくろいものがちらばり、おしりの方へいどうします。ふんになってぜんぶでたら、また体はすきとおります。見ていると、ふじぎです。

四日くらいすると、一回目の脱皮が始まります。二れい幼虫です。脱皮の時、首のあたりからせなかに線ができて、そこがわれてきます。いっきに脱皮してしまうのめいれば、ちょっと時間のかかるやつ、それから頭がでなくてそのまま死んでしまうのめいあります。三分の一は、一回目の脱皮で死にました。

それから、何日で二回目の脱皮をするのかわか

りません。

じつは、夏休み一週間するすにしたいのです。でも帰ってくるまで生きてるように、水草とかくられるためのりゅうぼくと、エサのち魚をとでも大きな入れものに入れて、そこへカップから十五匹いれました。帰ってきたら、ぜんめつでした。がっかりでした。

たまごからのかんさつは、そこまででした。

でも、ぼくは、二回脱皮したあとの三れい幼虫を三匹取ってきていたので、それは生きていました。三れい幼虫は八センチ位です。そのうちの一匹は、もうすでにさなぎになっていました。三れい幼虫になったら、十日位で土の中にもぐるので、ピートモスという土でおかを作ってあげると、まゆの形をしたへやを作り、その中でさなぎになります。さなぎになって二週間位で、土の中で脱皮し羽化します。

ぼくは、羽化のかんさつをしなかったのですが、幼虫が土にもぐって三週間位たつてから、さなぎをしばらくにほりだしました。そしてシャーレの入れものに土を入れ、まゆの形のあなを作り、その中にさなぎを入れました。そしてその上に、とうめいなプラスチックでふたをして、かんさつできるようにしました。

白いさなぎが、だんだんオレンジ色になって、その色がこくなりましました。とりだして二週間位で、羽化しました。

まっ白で、とてもきれいです。やっとゲンゴロウのすがたになりました。ちゃ色になりどんどんくろっぽくなって成虫になりました。

カブト虫の羽化もふしぎでしたが、幼虫のすがたと成虫のすがたのまったくちがうものは、とて



もおもしろいです。

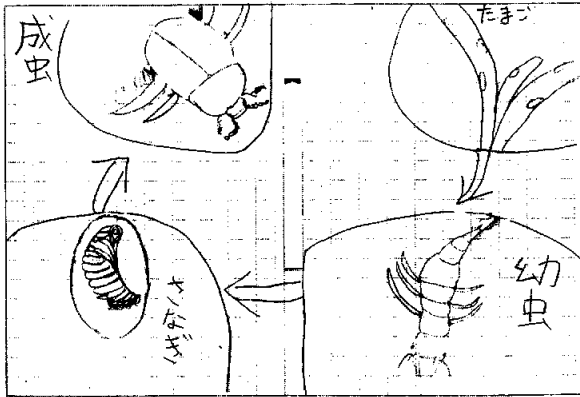
ぼくは、これからもいろいろな生きものを育ててみたいのです。

そして、大きくなったら、マレーシアなどの外国にも行って日本でみられない昆虫を見てみたいのです。

でも、虫のすんでいる木などが、どんどんなくなってきているという新聞のきじも読んでみました。自分が大きくなるまで、昆虫がまだいるか、とても心ばいいます。ぼくのゆめなので、かなえられるといいです。

生きものは、自分でせわをすると、たいへんだけど、とてもかわいしいし、いろいろなほっけんもあります。

みんなも育ててみてね。

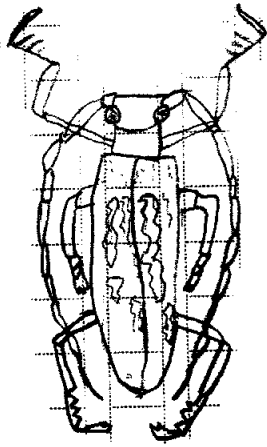


## 銅賞

### しろすじかみきりげんきで

根室市立花咲小一年 刀禰 春洋

ぼくは、なつやすみに、しれとこのおんせんで、しろすじかみきりをつかまえました。ママとよるろてんぶろに入っているとき、でんきになにか大きいものが、とんできました。ママはガだとおもって、あわてて中へ入っていききました。でもぼくは、ほんとうはなにかたしかめたかったので、ちかづいてみてみました。すると、大きなかみきり虫でした。かみきり虫は、かまれるといたいで、ちゅういしながらつかまえました。へやでよくみると、白いものがあつたので、しろすじかみきりでした。ぼくは、この虫をかうことにしました。お兄ちゃん、虫にくわしくて、いつもめずらしい虫をつかまえて、たくさんかっているけれど、ぼくがとつためずらしい虫は、はじめてでした。学校がはじまったら、みんなにみせかったので、それまで生きているように、いっしょうけんめいせわをしたり、かんさつしようとおもいました。しろすじかみきりは、



こんな虫で、目をよくみると、あみ目のようになっ

ていました。はねは、さわってみると、とてもかたく、は(ほんとうはあご)は、するどいんです。木のえだやかわをたべます。

かみきり虫のしゅるいによって、たべるものはちがいますが、しろすじかみきりは、くり、くぬぎ、こなら、いちじくなどのえだをたべると、じてんにかいてありました。

ぼくは、くりの木ならわかるので、くりのえだをとってきて、水のびんにさして入れました。でも、あまりたべませんでした。本には、りんごやさとう水で、水ぶんもとるとかいてたので、りんごを入れました。水ぶんをとらないとすぐしぬそうです。りんごは、よくかじりました。

えさは、いろいろな木をやったりしましたが、だめでした。こうえんから、どんぐりのなる木をみつけてとってきましたが、くぬぎやこならではなかったみたいで、これもだめでした。

でも、二しゅうかんい上、生きてくれて学校でみんなにみせることができました。

えさをたべないので、にがしてあげることにしました。本とうは、ずっとかっていたけど、木のそとにでて(よう虫のときは、木の中でそだちます)。四か月でしぬとかいてあったので、かわいそうなので、しぜんの中にかえしてあげました。

木につかまらせてあげました。そうしたら、木のいろとまじってわからなくなりました。こうしてみをまもっているんだと、ぼくは、おもいました。

いつまでもげんきでいてくれればいいと、おもいました。

また、いろいろな虫をかってみたいです。

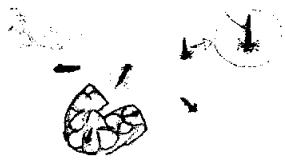
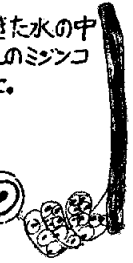
サンショウウオのかんさつ(抜粋)

函館市立駒場小三年 山谷 学

5月 13(月)

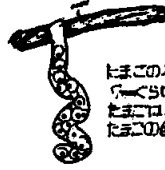
くんできた水の中にたくさんミジンコがいました。

たまごの形がわかりました。



5月 12日(日)

大沼でサンショウウオの卵も見つけてきた。2日前に見つけたときは、広い沼だったのに、工事で、せまくなってしまった。なかなか見つからなかった水のたまっていては、水こうで卵を見つけた。



たまごの入っているくぼき9つくらいです。たまごは、2つくらいです。たまごの色は黒です。



このたまごのくぼきは9つくらいです。たまごの中には、たまごの形がわかりました。たまごの色は黒です。

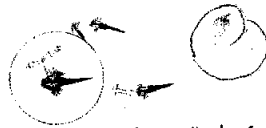
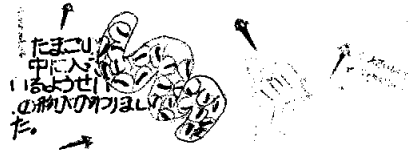
5月 27日(月)

さしいは3.のしたはう。



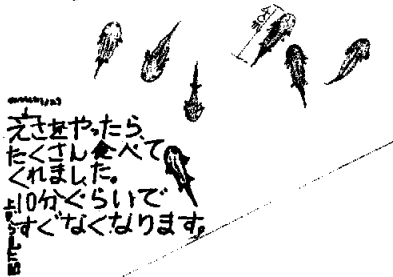
サンショウオに前足がはえてきました。それとおなかの大きくなりました。もともっと大きくなしてほしいです。

5月 15日(水)



えさをやると食べた食べているところを見ていません。

6月 10日(月)

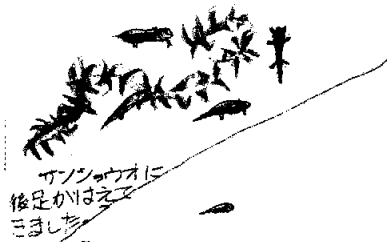


えさをやたら、たくさん食べてくれました。10分くらいですぐなくなりました。

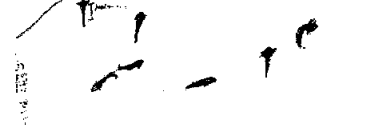


サンショウオに足のはえていいるのは、はえてないのがあります。

6月 1日(火)



サンショウオに後足のはえてきました。



サンショウオのたまごの形がわかりました。

### キアゲハの観察(抜粋)

旭川市立東栄小五年 金谷 大祐

六月十五日(土)

今日、白い物置き場のうらに、きょ年とったキアゲハのタマゴを見つけた。

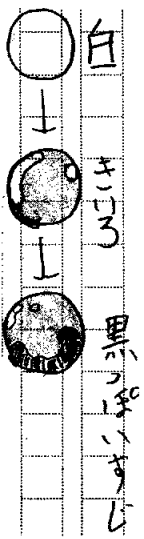
げんかんに置いて、もう一度行ったら、二つ見つけて、合計三このタマゴを見つけて、うれしかったです。家に入って、みつけたタマゴを虫かごに入れました。タマゴはまだ何も変化はなかったけれど、七月ごろには、タマゴが黒くなるだろうと思

いました。

六月二十日(木)

学校から帰ってキアゲハの虫かごをみると白っぽいタマゴが、きいろっぽくなっていました。そしてきいろっぽいタマゴに黒っぽいすじがでてきました。

きょ年より少しはやく黒っぽいすじが出て、うれしく思いました。



六月二十九日(土)

朝、新しいはっぱをとりに行ってもどってきたら、かごから二匹だっ走っていました。全部で七匹います。よう虫のせ中のまん中ぐらに白

じができて、うまく成長すると大きなフンみたいになって、人にはさわれなくなりま

す。

六月三十日(日)

朝一匹ぐらいだっ皮したか調べたけれど、まだ一匹もだっ皮していませんでした。かれた葉っぱをすてて、新しいのにとりかえ四時ごろ見たら、しわしわのウンチみたいのがあって、よく見るとできたのホワホワのだっ皮した一匹が二令幼虫になって、体のあちこちにあった赤いプチプチがはじっこにいつて、少しまともになりました。

七月八日(月)

朝、学校に行くとき見たら、一匹だっ皮して白いすじもはつきりくつきりして、赤いてんてんもオレンジっぽくなり、黒い体もうすくなっています。[はやく成長してハナクソタイプのふんを見せてほしいな。]と思いました。午後六時半ごろだっ皮しようががんばっているのを見つけてました。

七月九日(火)

まだ小さかったのが大きくなったと思ったら、成長した幼虫が小さくて、まだ成長してないほ

うのが大きくなっていました。ぼくはどうしてだっ皮しようとし

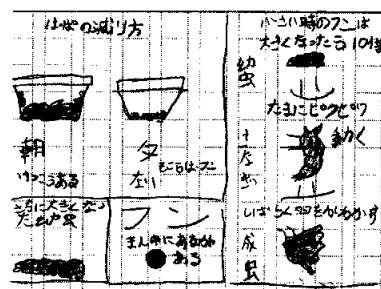
ないのか、はっぱを食べてプクプクふとろうとして、指でつついても、まだ食べ

続けているのが不思議でした。今の幼虫に毛が生えたら、ドクガに

なっています。

七月十三日(土)

朝、起きて見ると、2匹が5令幼虫になって、きのうの一匹をたして3匹になりました。だっ皮をしようとしているのが2匹、今はぜんぶだっ皮しようとしています。



七月十九日(金)

夜、歯を磨いていた時、幼虫はさなぎになっていました。さなぎになる所を見のがしてしまいました。2匹目が動きだしたので、机の上にもってきて、お母さんと見ていました。初めに背中あたりを、つきやぶってズボンめぐるような感じで、動いて皮がおちました。初めてさなぎにかわる所を見ました。次は成虫にかわる所を見たいです。

七月三十一日(水)

キアゲハは全部羽化しました。さなぎから羽化するのに、約十日かかりました。それと羽化するしゅんかんを見ることができました。幼虫からさなぎになる時より、少し早く出てくるのでできました。シッポの部分

をさわると、おしっこをしました。にがそうとしても、ぼくの手からなかなか、はなれませんでした。

